

# 令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立熊野高等学校

学校長名： 入澤 和彦

目指す学校像 育てたい生徒像	生徒が安心して学校生活を送ることができ生徒の自己実現に向けた支援ができる学校 幅広い人間性と「自立」「共生」「挑戦」の精神を身につけて、社会貢献ができる生徒
-------------------	---

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 授業の充実と確かな学力の育成を図る。
	2 キャリア教育の定着とさらなる推進を図り、生徒の希望進路の実現を図る。
	3 地域連携の活動を通してその意義を理解し、併せて地域防災意識の向上も図る。
	4 倫理観や規範意識を高め、ルールを守り、安心安全な学校生活の実現を図る。

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校再編および新学習指導要領実施に向けて、教育活動計画の再構築を行う</li> <li>・社会的マナー・モラルの遵守について、全職員の共通認識のもと指導を徹底</li> <li>・スタディサプリの活用に伴うICT環境の整備を行う</li> <li>・ボランティア活動や地域活動に課題を見つけ積極的に取り組む</li> </ul>
--------	--

学校評価の結果と改善方策の公表の方法	インターネットの熊野高等学校のホームページに掲載するとともに、全保護者、熊高教育協議会会員に会報を通して連絡する。
--------------------	---

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					令 和 3 年 度 評 価 ( 3 月 1 4 日 現 在 )		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	学校は落ち着いた雰囲気の中で展開されている。授業は静かに取り組んでいる。しかし、積極性、主体性に欠ける部分が見受けられる。また、家庭学習も疎かになりがちである。そのため教員の授業力向上はもとより、生徒たちに目的意識をもたせる働きかけが必要と考えられる。	教員が授業研究等を行うことで授業力向上を図っているか。 生徒の主体性向上のための、方策が取られているか。 科目選択等を通じて、生徒の目的意識向上を図っているか。	授業研究を実施し、積極的に各教員が参加する。タブレット活用を取り入れ各自の授業力向上を図る。 家庭での学習習慣の定着のため定期的な学習課題を提供するとともにその内容も吟味する。その一方で生徒による授業評価を実施する。 生徒各自の進路に即した科目選択ができるよう丁寧な指導を行う。	研究授業、研究協議を実施した際には、教科の枠を超えて内容を共有できるような情報提供の機会を確保する。 課題テストや小テストの実施する。生徒による授業評価の実施する。 科目選択で、できる限り生徒の希望が叶うよう配慮する。	昨年に続き分散登校や臨時休校等で例年通りの授業ができなかった。そんな中でスタディサプリアを導入し自宅学習時間を確保できた。各教科が様々な工夫を凝らしながら何とか例年通りのカリキュラムをこなした。看護科においては病院での臨地実習ができず校内実習に切り替えた。	B	来年土も引き続き指導方法の工夫・改善をし、授業力の向上を常に目指し、研究授業・研究協議の機会をしっかりと確保し継続して実施していく。 更にスタディサプリア導入による基礎学力アップやPCタブレット活用による効果的な学力向上を目指す。
2	進学面したい気持ちはあるが、指定校・AOへの依存度が高い。主体的な学習習慣をどう確率させるかが課題である。就職面は、コロナ禍の影響で説明会や職場見学等が困難なであり、きめ細い指導を行うことが必要である。専攻科では全員の国家試験合格を目指している。また、進学希望の生徒への組織的な指導体制が必要である。	生徒の進路実現に向けての段階的・系統的な取り組みが効果的になされているか。 生徒自身が自ら考え行動し決定できる進路指導がなされているか。 看護科5年間を見通した継続的な指導が行われているか。	進学・就職に対応できる学力および自身の進路について様々な情報を収集・整理し、具体的方向付けができる力をつけさせる。 キャリア教育を通じて勤労観・職業観を高める。 看護科は、実習や卒業生・異学年との交流を通して看護師として必要な素養および意識を高める。	到達度テスト実施による学力の底上げおよび模試への積極的な受験による客観的な学力の分析による進学指導。多岐にわたる進路希望への組織的な対応と成果。 インターンシップや校内ガイダンスの効果的な実施により、進路未定者の減少。 生徒への継続的・多面的な進路指導の実施に伴い、希望進路の決定率の向上。	コロナ禍ではあったが、校内ガイダンスや分野別説明会を多く行う事ができた。また、総合学科の「産社」の肝である学習発表会もなんとか実施できた。 看護科に於いても早期の進路指導により就職内定率は高まった。異学年との交流が効果的であった。大学編入制度改革にも着手した。	B	2：1の割合で進学希望者が多い者の大学入試を一般試験受験者は少ない。そういった生徒に対する手立てを教科と協力して取り組む。また、総合学科看護科ともに、早期から職業理解や学校選択などの指導を徹底する。 今後、進学や就職を希望する生徒に小論文講座を取り入れて対応していく。
3	サポーターズリーダー部をはじめ農業クラブ、吹奏楽部、読み聞かせサークル等において地域に貢献する多くのボランティア活動を行い、さらに上富田町と合同防災訓練を実施する。こうした活動の成果をさらに高めるために、さらに多くの生徒・職員の参加・協力を促す必要がある。	ボランティア等地域活動についてその意義を理解して参加できているか。取り組みの成果が校内で共有化できているか。 防災訓練を通して自らを守り、災害時に地域にどのような貢献ができるかを理解しているか	教科・部活動等に加え、委員会活動とも連携しながら、積極的に地域の活動に参画する。 マンスリータイムスやアゼンブリ等の機会を利用して、地域活動の成果を共有する。 上富田町と合同の防災訓練を行う。消防署の指導により救急救命訓練を行う。HRやアゼンブリにおいて適宜防災教育を行う。	全生徒の地域活動への参加目標回数を年2回以上とする。 地域での活動をホームページなどに積極的に掲載し広報活動を行う。またアゼンブリ時に積極的に取り上げる。 緊急時の退避行動を迅速にとる。救命措置を適切に行うことができる。自発的に地域連携の行動をとることができる。	サークル活動では、読み語りボランティアなど地域の施設慰問等を行う事ができた。特にサポーターズリーダー部の救急救命用のAEDシートの取り組みや警察依頼による動画撮影などの活動を行った。 社会科授業で前年度に続き上富田町応援プロジェクト実施や課外活動に於いて積極的に地域貢献活動に取り組んだ。	B	上富田町合同の防災訓練は町民と協力して実施する事ができた。次年度はさらなる地域防災の担い手としての意識の向上を目指す。 地域貢献活動については学校行事やクラブ活動、生徒会活動として十分に達成できているが、さらに多くの地域貢献活動を行うことを次年度の課題としたい。
4	大きな問題行動は減少傾向にあるが、特にSNSが問題視されている。また、長期欠席・不登校に陥る生徒が増加傾向にある。今後、更なる挨拶、マナー指導の充実と集団の秩序と連帯感、学校や学年への帰属意識を醸成することが必要がある。	マナー(SNSを含む)、挨拶指導の充実を行い、基本的な生活習慣の確立が行えるよう、継続した指導を行っていく。また、集団の秩序と連帯感についても常に指導の中心としていく。	挨拶、マナー指導(SNS使用を含む)等、基本的な生活習慣の確立が行えるよう、継続した指導を行っていく。また、集団の秩序と連帯感についても常に指導の中心としていく。	学年アゼンブリーで点検指導の後も指導を継続する。校内巡視及び校門指導等の事後指導等を継続して行う。 遅刻無断欠課防止の啓発及び事後指導を行う。 些細な事象でも見逃さず継続した指導を行う。	コロナ禍であったが1学年全員で行う水路掃除を実施する事ができた。改めて地域へ貢献することの大切さを感じた。また、大きな声での挨拶運動は不十分であった。しかし、学校全体は落ち着いていて指導件数はほとんどなかった。	B	これまでの行事や教育活動を途切れさせることがないよう、清掃活動をはじめ、挨拶指導や身だしなみ指導、マナー指導を工夫を凝らし実施し基本的な生活習慣の大切さを生徒に理解、身につくように粘り強く取り組んでいきたい。

学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>学校改革構想より本校の弱味に勉強意欲が低い事が挙げられているが、熊野高校には偉大な卒業生は大勢いる。感受性の豊かな成長期の高校生に面白い授業を展開する魅力ある先生が過去に何人もいた。今一度「学びとは何か」時代は違えども高校生の心に響く魅力ある授業になるよう期待します。</p> <p>令和4年度スクールポリシーを考えるうえで熊野高校は地域に根ざした大切な学校です。今後、総合学科の特色を生かして、学習面でも学力向上を目指して欲しい。また、地域を支える看護科においては国家試験合格に向けて頑張ってもらいたい。</p> <p>社会貢献ができる人の育成がありました。世の為、人の為に働くことが大切であろうと思います。熊高生には、そこを目標にしてもらいたいと思います。</p> <p>サポーターズリーダー部のAEDシートの開発及び配布活動で、地元の小中学校や施設の人がとても喜んでいました。本県のみならず他府県からもこの取り組みに多くの問い合わせを受けていると聞いています。頑張ってください。</p> <p>社会科授業で上富田町応援プロジェクト第二弾と題して、青年商工会や町民と一体となって地域の企業や商店の広告をネット配信してくれています。町全体を活性化する取り組みは素晴らしい活動だと思います。更なる先生方の指導の導きを期待しています。</p> <p>女子ソフトボール部が創部以来初の春の第40回全国選抜大会出場を決めたことは、熊野高校及び地域にとっても大変喜ばしいです。日頃から、地域盛り上げてくれているクラブが出場するので心から応援します。</p>
-------------------	---